

令和5年度 第3回 可美中学校運営協議会 会議録

- 1 開催日時 令和5年11月28日(火)13時30分から15時50分まで
- 2 場 所 可美中学校 3F CSルーム
- 3 出席委員 小野田和弘 小野田康弘 岡本眞理 和田剛 牧野源太郎
(敬称略) 中村淳子 川原眞美 出野眞未
- 4 欠席委員 中村精志 見野大輔
- 5 学 校 北村健治(校長) 池野弘昭(教頭) 中村里恵(教務)
與五沢智宏(CS主任) 中川将大(CS担当)
杉浦且典(教諭) 石黒竜市(教諭)
鶴田法子(CSディレクター)
- 6 教育委員会 鈴木陽子(教育総務課)
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 鶴田法子
- 9 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、多くの委員から小野田会長を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

～進行を 小野田議長に交代～

10 5 報告

(1) 学力調査の結果(中村教諭:資料1)

国語・数学は全国平均及び静岡県(浜松市も同じ)の平均正答率を上回った。

英語の正答率は下回った。

現在の教科書を見てもらうとわかるように、教えることが多くて、狙いを定められない。精選して実行していきたい。『読む』『聞く』『話す』をバランスよく教えていきたいが、3年生の受検の為にはどうしても『読む』『聞く』が中心になりがちである。

質問紙より

<学習の基盤となる週間>

勉強時間が少ない。

与えられたことはやるが、進んで主体的に勉強する生徒が少ない。

<規範意識・自尊感情>

「いじめはどんな理由があってもいけない」と思っていない人が平均より上回っていることが残念である。

「将来の夢や目標」を持っている生徒が多い。

先生は良いところを褒めてくれると感じる一方、自分には「良いところはある」と感じる生徒が少ない。

どの質問に対しても無回答が0で、何事にも一生懸命やる子たちという印象。

(2) 職場体験（中川教諭：資料2）

【活動報告】

1年生に職場体験の前に総合ガイダンスで「なんのために働くのか」と聞いたところ、ほとんどの生徒が「お金のため」「生きるため」と答えた。

それ以外の「働く魅力」を見つけてほしいと感じた。

総合的な学習の時間を使って、

〈身近な人の職業調べ〉 〈マナー・敬語講座〉 〈職場体験先調べ〉 を行った。

職場体験を成功させるために、

〈体験先への行き方を調べる〉 〈働くひとへ質問を考えてインタビューする〉

前日の学年集会で学年主任から

〈「お金のため」「生きるため」以外の、働くことに対する魅力や考えを見つけてくること！〉の課題の提示。

【目的】

- ①働く大人の生きざまに触れ、様々な職業が社会を支えていることに気づかせる。
- ②自己の進路に対する関心を高め、働く意義や職業人として働くまでにどのような見通しをもって生活していけばよいかを考える機会とさせる。
- ③職場への電話連絡、当日の体験や質問、終了後のお礼の手紙等を通して、電話を掛けたり人と接したりするときの正しい言葉遣いや礼儀・態度を身に付けさせる。

1年生職員は41社の各活動場所を訪問し、生徒の活動の様子を見てきた。

活動中の様子はクラス掲示板に写真掲示する予定。

4年ぶりの開催となった職場体験だが、とても貴重な体験だと改めて感じた。

多くの企業の方からお褒めの言葉をいただき、生徒たちが頑張った様子を聞いて嬉しかった。

CSの岡本様、川原様のご尽力もあり、活発な活動ができました。ありがとうございました。

今後は、総合的な学習の時間を使って、働くことに対する魅力をまとめていく作業に入り、気持ちの変化を知りたい。

お世話になった体験先にアンケートやお礼の手紙を出させてもらい、こどもたちの今後の成長につなげていき、来年度以降も継続して行っていきたい。

(3) 受検前面接指導（與五沢教諭：資料3）

11名の面接官に御協力いただき、1月25日26日、2月21日22日に行う予定。

～休憩 14:35から14:45～

11 熟議

(1) 可美中学校のいじめ対策について（杉浦且典教諭：資料4）

- ①いじめ防止等のための基本的な考え方…学校ホームページで見ることができる。
- ②いじめ防止等の対策
- ③重大事態（学校のレベルを超えた事態）への対応

④いじめ対応の流れ

いじめ認知→対応→経過観察→解消(3か月経過していること。心の状態の確認)

⑤いじめ対応(いじめの認知)はどこから?

○発見・相談(いじめが疑われる事案を把握)

●情報収集(校内いじめ対策委員会で対応を検討)→この会で認知したところから始まる。

○事実確認(事実を明らかにするように聴き取る)

○方針決定(情報を整理し、その後の対応を検討する)

⑥早期発見～いじめを見逃さない～

普段から子どもたちの取り組みや、日々の生活記録が早期発見につながる。

⑦未然防止～いじめを起こさない～

生活アンケートは、2学期からタブレットを使ったオンラインとしている。

複数回行うことによって、悩みの推移がわかってくる。

利用回数などの活用方法は今後修正していく。

<和田委員>

アンケートに救われた過去がある。

タブレット回答がどう使われているのか不安になる。

見えないいじめの炙り出しが難しい。

SNSの存在を親がどう見ているのか。

加害者にも被害者にもなってはいけない。スマートフォンの扱いに注意が必要。

コロナ禍から対人関係が苦手になっている。

発見が難しい。

<小野田委員>

生徒の様子を見て対応していくことが大切。

すべての先生がそれをできるように。

<岡本委員>

インターネット、SNSの扱い方を親から注意してもらうべき。

(2) 令和5年度 やらまいか講演会について(北村校長:資料5)

11月・12月の全校集会で事前告知することになっている。

令和6年1月23日(火)開催

中野市長、小野田市議をゲストに迎え、可美中学校代表6名と共に、トークセッションのスタイルで自由に意見交換を行う。

3年生が中心となる代表6名はすでに決まっていて、トークセッションのネタ作りや練習は、昼休みに校長室で行うこととする。(TSJ=トークセッション準備会)

子どもたちの意見が出たところで、ある程度のシナリオを作る。

市長が学校に来ることはなかなかないことで、貴重な体験になる。チャンスと捉えたい。

<小野田市議>

生徒はどこまでわかっているのか?

「地方創生」「人口」「面積」など。

(3) 令和6年度 やらまいか講演会について（與五沢教諭：資料6）

グループにわかれて協議



Aグループ

そらじいさん
伊豆田弁護士
大林素子さん
久保ひとみさん

Bグループ

そらじいさん
秋元健一さん
大林素子さん
久保ひとみさん



Cグループ

決められなかった。

(4) 今後の活動支援について

・地域部活動（北村校長：資料8）

令和8年度9月以降、休日の部活動を地域クラブ活動へと随時移行していく国の計画については、実際浜松市ではいつからかは決まっていない。地域に人材を求め、1歩ずつ進めていく。積志中学校が行った「休日の部活動指導に参加可能な人材について」の実態調査についてグループで話し合う。

〈Aグループ：川原委員〉

地域に回覧するのはいい案だと感じた。
課題としては、面談や講習も必要。
事故や報酬についても考えなくてはいけない。





<Bグループ：牧野委員>

回覧は有効な手段だと思う。

年齢制限を設定するべきか。やる気のある人が集まると無責任な人は来ない。

他校の部活との交流も良いと思う。

<Cグループ：和田委員>

地域に回覧するのは良いと思うが、部活動を外部の教育者でない人に任せることはどうか。

この活動がどういう方向に向かっていくのかロードマップを示さないことには手を挙げにくい。



<小野田市議>

今年度から協議会ができています。委員も理解できてないのが現状。模索中。

生徒・保護者・地域にアンケートを取り、方向性がある程度出たら、指導者はどういう人がいいのか、生徒を預かるという責任をどう持つのか等を議論していく。

・今後の活動支援について（池野教頭：資料7）

前回、えんたくんを使った「今後の活動支援について」をそのままにするのはもったいないので、さらに広げていきたい。今回は延期とし、次回（第4回）で進めたい。

12 連絡

(1) 学校運営協議会自己評価の実施と結果等の報告について（與五沢教諭）

(2) 学校の取り組みに対する評価について（中村教諭）

※ (1) (2) 様式2については、回答後学校へ提出する。

(3) 令和6年度 学校運営協議委員 意向調査

(4) 第4回学校運営協議会について（與五沢教諭）

・2月20日（火） 13:30~15:30

13. 教育委員会から

<鈴木先生> 会議の内容は充実している。大きな行事が終わりまとめの段階に入っている。

次年度のことを考えていく。学校経営の振り返りをし、良い評価、課題になる点も、子どもたちの姿を見ながらプラスにしていきたい。

14. アンケート記入

與五沢教諭 委員の方にはアンケート記入をお願いしたい。
名札は回収して、今後は事務室で預かります。

以上、令和5年度 浜松市立可美中学校 第2回学校運営協議会を終了します。